

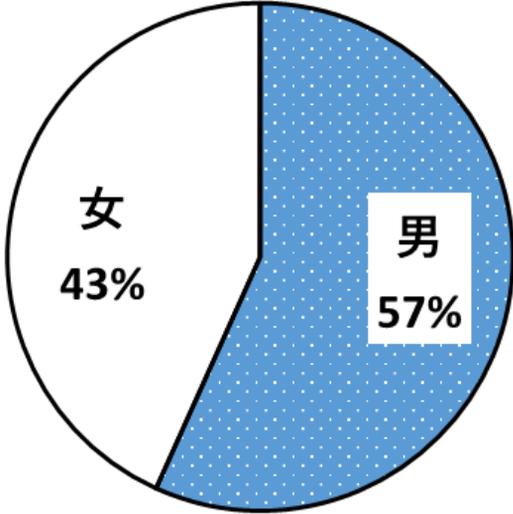
認知症初期集中支援推進事業  
(認知症地域支援推進員)  
実績集計  
(令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分)

1. 若年性認知症実践事例 対象者分析 介入時 性別・世帯・年齢
2. 若年性認知症実践事例 対象者分析 介入時 主治医・主介護者・  
相談者・主訴
3. 若年性認知症実践事例 終了ケース分析 就労状況・診断
4. 若年性認知症実践事例 終了ケース分析 介護保険・障がい福祉
5. 若年性認知症実践事例 終了ケース分析 サービス・支援内容

1. 若年性認知症実践事例 対象者分析 介入時 性別・世帯・年齢  
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日把握分) N=37

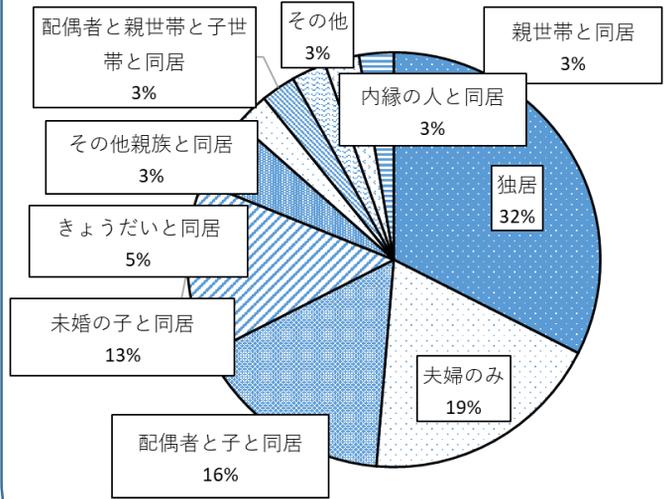
性別

図-5



世帯別

図-6



年齢階層別・性別 支援対象者数

図-7

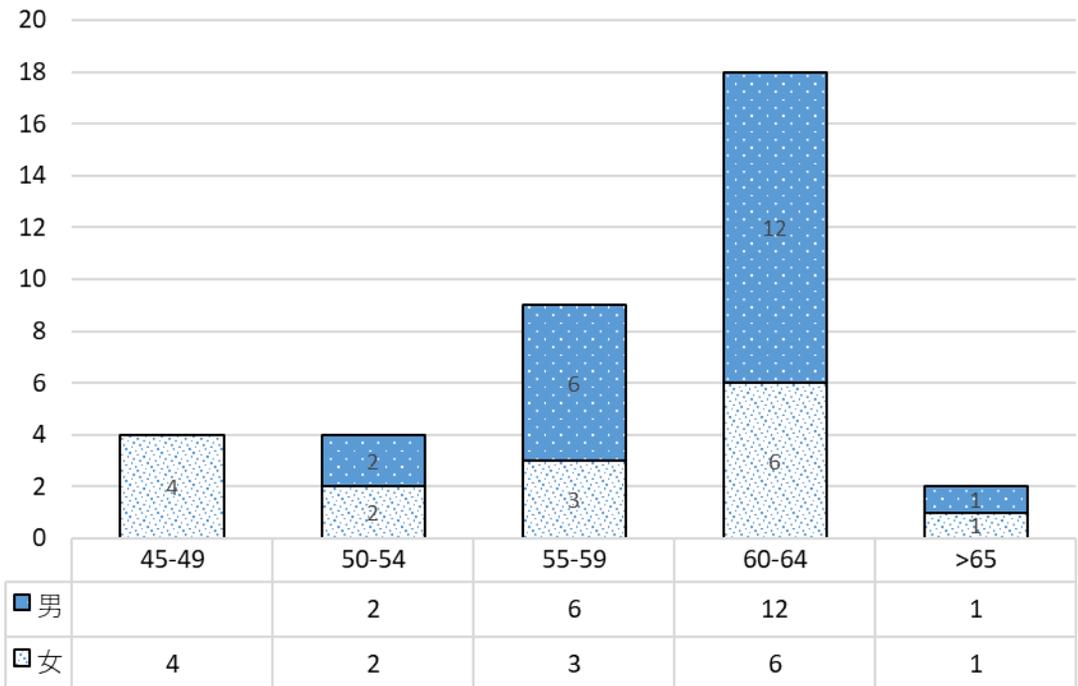
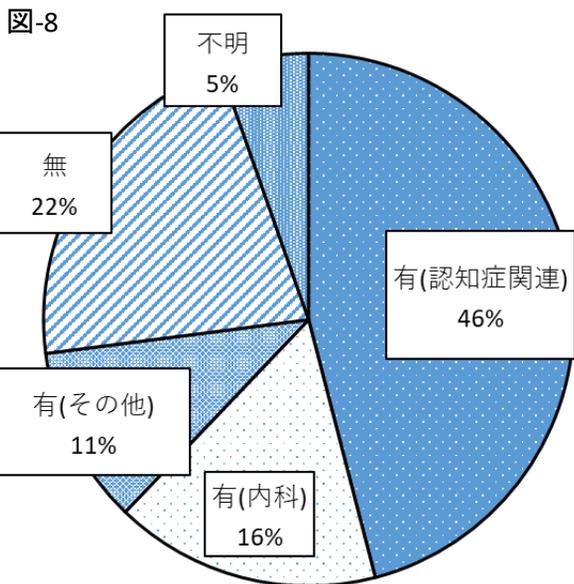


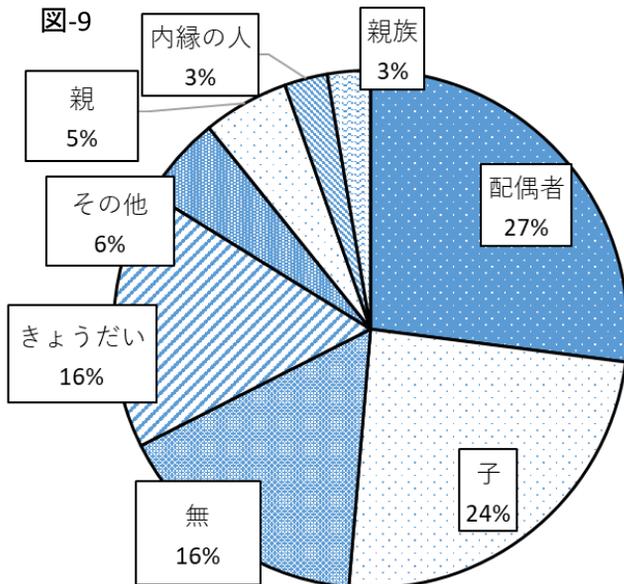
図-5 チーム支援と比べ男性の方が多。 図-6 チーム支援と比べ独居・夫婦世帯が少ない。  
 図-7 60-64歳階級が最も多く、男性の比率も高い。

2. 若年性認知症実践事例 対象者分析 介入時 主治医・主介護者・相談者・主訴 (令和4年4月1日～令和4年12月31日把握分) N=37

### 主治医の有無



### 主介護者



### 相談者



### 相談主訴

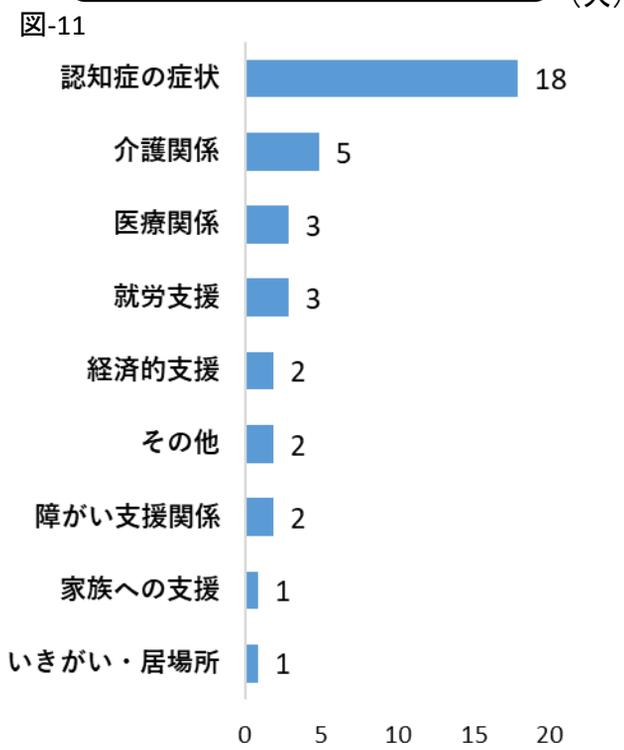
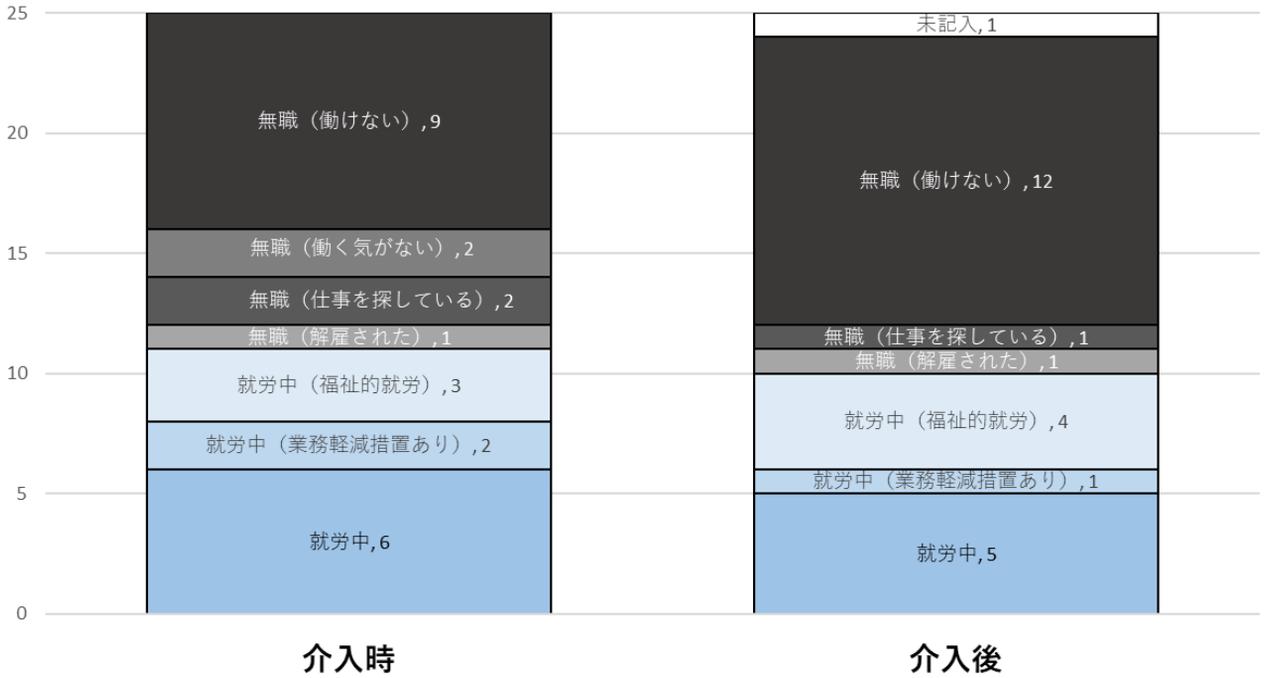


図-8 診断済みのケースも多く、認知症関連の医療機関にかかっている割合が高齢よりも高い。  
 図-9 子が主介護者となっているケースが24%あり、介護者なしも16%報告されている。  
 図-10 家族・包括に次いで事業所からの相談が多い。 図-11 相談主訴は認知症の症状が半数を占める。

3. 若年性認知症実践事例 終了ケース分析 就労状況・診断  
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=25

**就労状況 介入時・後**

図-12 (人)



**認知症の診断 介入時・後**

図-13 (人)

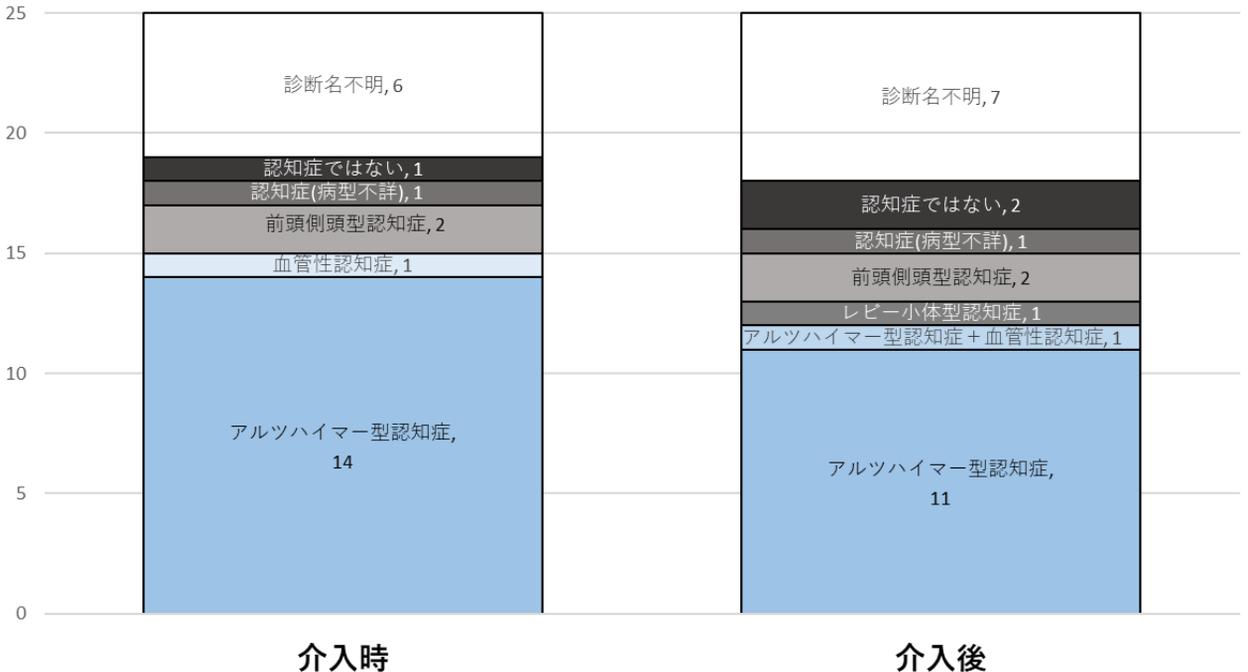


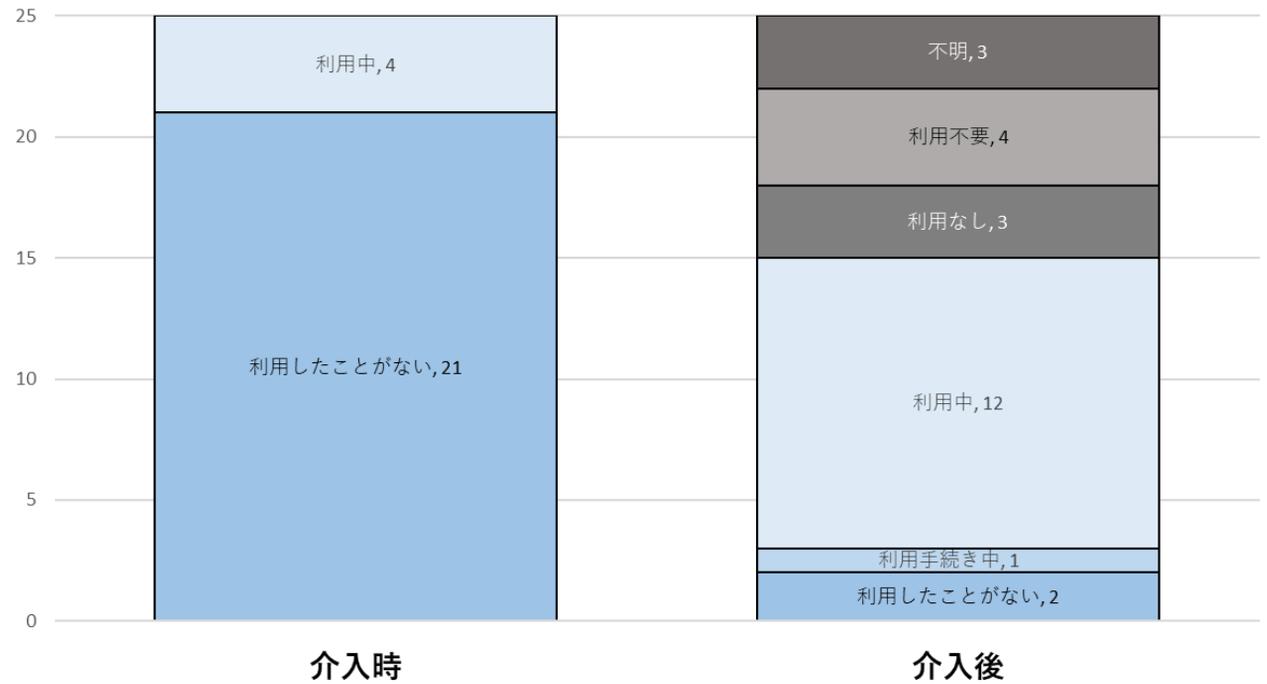
図-12 無職から就職につながったケースは2ケース、有職から無職となったケースは3ケースあった。

図-13 介入時アルツハイマーからレビーへ、血管性から混合型に変化したケースがあった。

4. 若年性認知症実践事例 終了ケース分析 介護保険・障がい福祉  
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=25

介護保険サービス 介入時・後

図-14



障がい福祉サービス 介入時・後

図-15

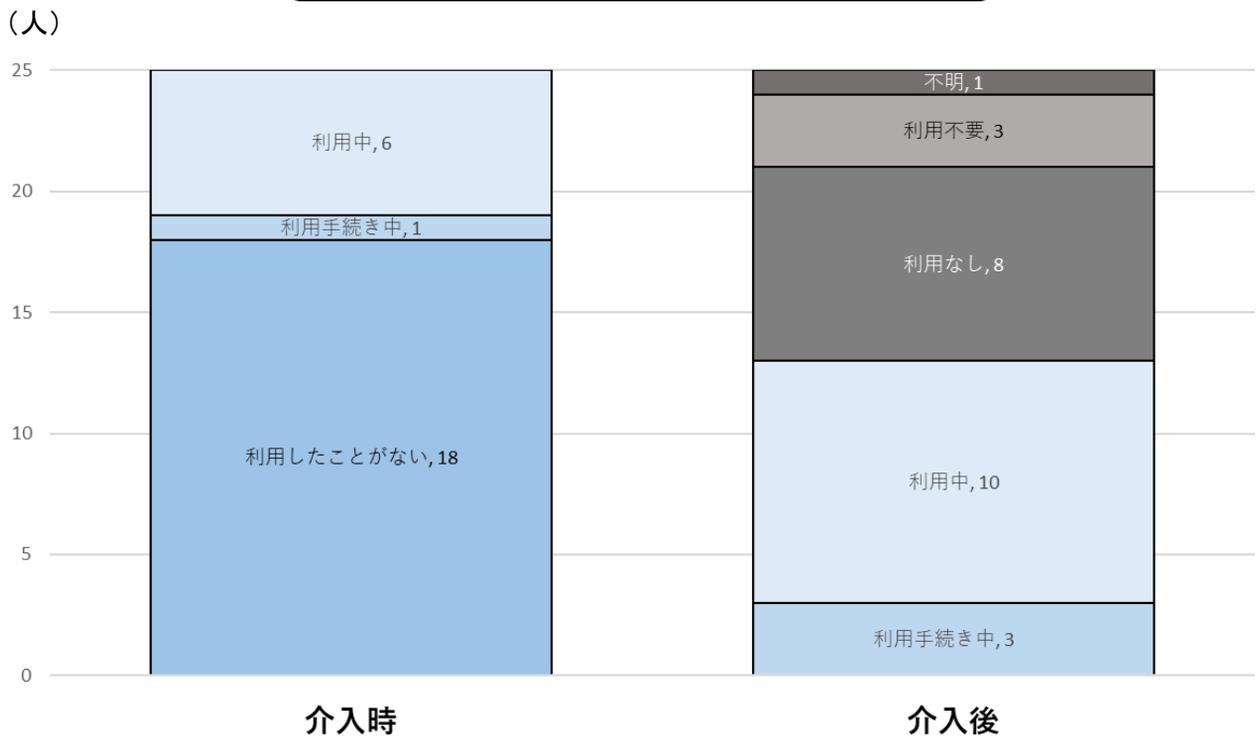
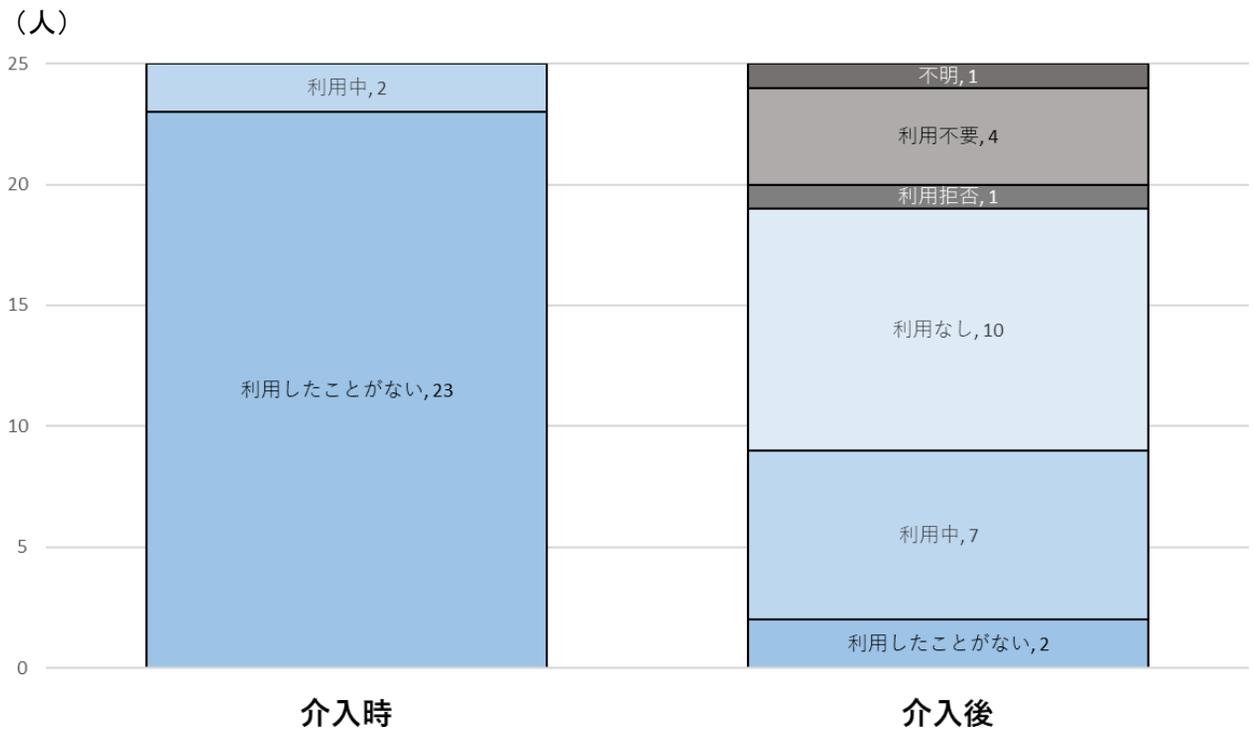


図-14 利用不要、利用なしの中には入院なども含まれている。  
 図-15 介護保険よりも介入時にすでに利用しているケースが多い。

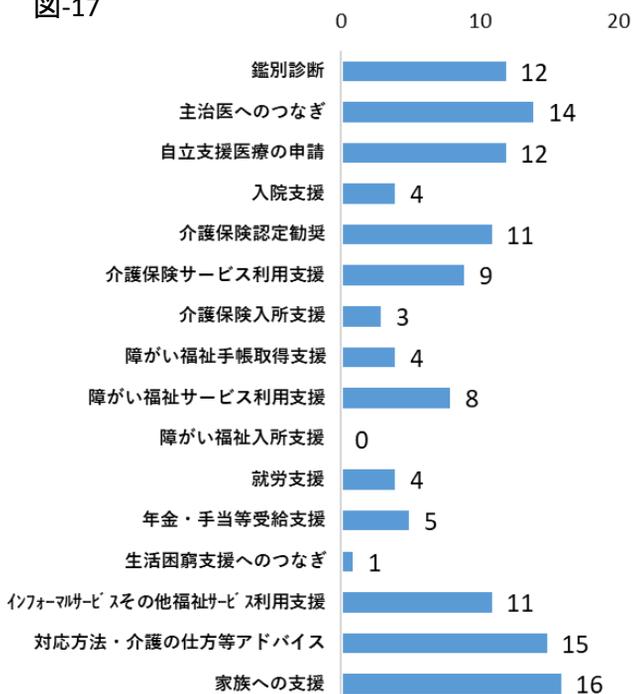
## インフォーマルサービス 介入時・後

図-16



## 支援内容 (複数回答あり)

図-17



## 利用サービス (自由記載・複数回答あり)

図-18

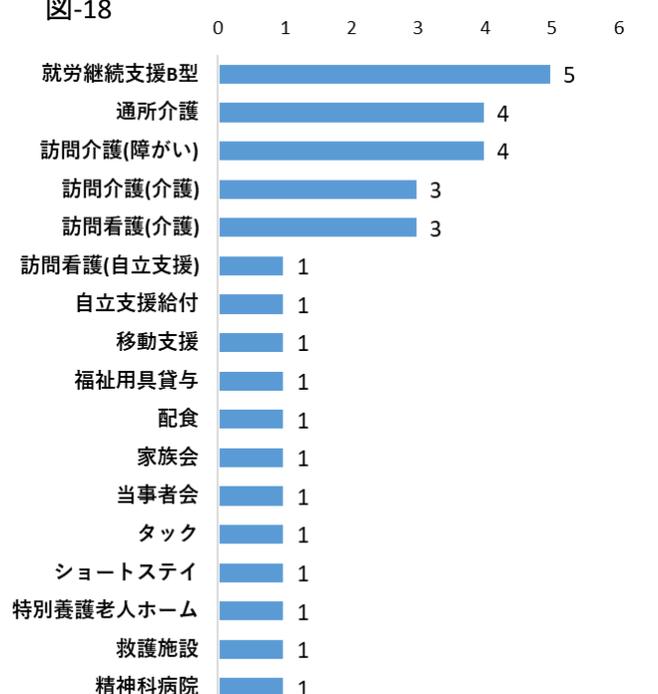


図-16 利用につながったものは7ケース。利用拒否が1ケースある。図-17 家族支援、対応方法が多く、本人以外への支援の必要性がうかがわれる。図-18 就労継続支援B型が最多となった。